



2018 - 2019 会長 五味 徳雄 幹事 北原 正博

Vol.7 1753 2018.8.22

五味会長挨拶

朝夕はめっきり涼しくなりましたが日中は残暑が厳しい今頃です。夏の高校野球大会も終わると夏も終わりに近づいて事を感じます。



今年の甲子園高校野球大会は 100 回記念大会にふさわしく好試合が多い大会でした。特に秋田金足農業高校の活躍は感動を与えてくれました。優勝はできず大変残念に思いましたが地方の公立高校で地元出身者だけのチームに思わず声援を送りました。どのチームにも増して記憶に残るチームでした。

「知者は水を楽しみ仁者は山を楽しむ」チームの中には色々な人がいるのが当たり前、全員が一様ではチームの良さ出てきません。多くの個性がきらめき全体として調和していることが理想のチームの条件ですと孔子は伝えています。

金足農業高校はそんな理想のチームだと思いました。茅野ロータリークラブも理想のチームを目指していきたいと思ひます。

※別紙幹事報告書

委員会報告

北原享会員

映画祭協賛、皆様ありがとうございます。本年度は 9 月 22 日～ 30 日に開催します。

竹村一男会員

ゴルフ同好会 本日、総会を行います。

長期交換留学生 桑澤太郎君 帰国報告

みなさんこんにちは。2017 年度青少年交換学生の桑澤太郎です。



先月の 7 月 19 日にパリから日本に帰国しました。今日はみなさんに、フランスでの 10ヶ月を通して僕が学んだこと、気づいたこと、そして今後の私自身の見通しなどを含む帰国報告をさせていただきます。宜しくお願いします。

昨年の 8 月 29 日に日本を出発した私は CDG 空港で第一ファミリーのハードワン家に迎えられ、シェルブールに到着しました。シェルブールは、フランス北西部、ノルマンディー地域圏のコタンタン半島先端に位置する人口 8 万人の都市です。

昨年、下諏訪ロータリークラブに派遣されていたグエンドリーヌの家族が私の第一ホストファミリーでした。その当時の僕のフランス語力はというと、発音の仕方、挨拶、そして数の数え方ぐらいいでした。

しかしグエンドリーヌが日本語、ホストマザーのサンドリーヌが英語を話せたため、彼らとのコミュニケーションが極端にうまくいかないということはありませんでした。また過去に 2 人の交換学生を受け入れていたということで、留学生への対応にも慣れていました。

しかし私の悩みの種となっていたのがホストブラザー達です。15 歳になるルイスは英語があまり通じず、9 歳のレオパルドは言うまでもなくです。

2 人とも両親とのコミュニケーションもあまりうまくいってなく、よく怒られていました。それが原因で不機嫌になることもあり、男兄弟のいない私には解決の方法が分からず、フランス語を話せるようになるまでは悩みの種の一つでしたが、それはフランス語を少しずつ習得していくことによって少しずつ解決していきました。

ニコニコBOX

人数 28人 金額 51,000円

- ◎五味徳雄会長 おおだい頂きました。 ◎長崎寛文会員 長女が塩尻に嫁ぎました。又新しい命が宿った様です。 ◎浜整之介会員 結婚記念のお花ありがとうございました。25年たちました。 ◎堀江藤夫会員 7年ぶりに実家仙台にお墓参りに行ってきました。 だいぶ復興は進んでいました。 ◎桑澤一郎会員 今日は息子の発表よろしくお祈いします。 ◎北原 享会員 今日映画祭、皆様のご支援に感謝!ありがとうございます。

出席報告

会員数 55名 出席 47名 出席率 85.5%

長期交換留学生 桑澤太郎君 帰国報告

彼らは本当に私をたくさんの場所に連れて行ってくれ、素晴らしい経験をさせてくれました。パリ、カーン、ルーアン、リヨンを観光し、長期休暇にはスキーに行き、週末にはサイクリング、サーフィン、乗馬など日本では体験したことのないような日々を過ごさせてくれました。また平日には街で空手を習うなど、本当にアクティブな家族です。マザーであるサンドリーヌは先月黒帯を取得しました。

次に2つめのファミリーである、ソレー家を紹介します。娘が3人、息子が1人の6人家族で、シェルブールの隣町、エクアドビルに住んでいました。彼らがとてもアクティブだったこともあり、第一ファミリーよりは皆、おとなしく控えめな家族でした。また時期的に天気が悪かったということもあり、週末は家にいることが多かったと思います。それでも3月にはまたもアルプスの方へスキーに連れて行ってもらいました。そこでのスキーの大会で優勝するなど本当に楽しい旅行でした。また乳製品を好んで食べるため、この頃には体重が5キロほど増えました。久々にテレビ電話と話した友達にもこの頃は太ったねと言われることが多かったです。

次に3つめのホストファミリーです。ウーゾーという4人の娘を持つ、両親の2人暮らしのファミリーでした。2人ともフランス南部にあるリヨンという街の由緒ある家系で、今は引退したものの、ファザーは貿易関係の仕事、マザーは弁護士をしていました。週末は私の行きたいところを聞いて連れて行ってくれたり、演劇や、ヨットを体験させてくれました。またバカンスでは、西部にある島の別荘に連れて行ってもらうなどフランスの裕福な家庭の生活を学びました。難しかった点をあげるとすれば、マザーが年で少し忘れやすい人のため、意思疎通がうまくいかないこともありました。

次に学校のことを話しましょう。ファミリーに続き、生活の大半を占める大事な要素でした。私は地元にあるlycee grinard という公立高校に在学していました。生徒数は750人ほどの小さな学校ですが、特徴としては、・日本のように行事やイベントはほとんどないが、外国語の授業や校外学習、海外研修などがある・他の高校に比べて給食が美味しい、などがあります。私は高校2年生のSという理系のクラスで過ごしました。授業はなかなか理解できないものが多かったのですが、外国人のためのフランス語の講座がありそこで週に8時間ほど勉強していました。

友達とは目立ったトラブルもなくそれなりにうまく過ごしていました。バロンタンという同じクラスの男の子と仲良くなり、学校ではほぼ1年ずっと一緒に過ごしていました。週末には他の子達とスケートやピクニック、BBQをすることもありました。また学校の日本語クラスでは先生の補助をしたり、みんなが日本語に訳す文章を逆にフランス語に訳すなどしながら、周りの生徒と一緒に勉強していました。そんな順風満帆に見える学校生活でも問題はありました。自分の友達同士が互いにけんかをしてしまったりなどありますが、なにより困ったのはみんなからの質問です。これはどこの国でもそうだと思いますが、日本という遠く離れた地から来た留学生には多少みな興味があります。そのため皆、私に質問を浴びせるのです。家族や友達の事なら特に問題なく答えられるのですが、日本人の文化、食生活、観光の事について聞かれると、知っているようでもなかなか答えにくい物です。

物理の授業では「福島原子力発電所の事故についてプレゼンしてくれ」とお願いされたり、フランス語の古典のような授業では、「俳句についてプレゼンしてくれ」など急な依頼も少なくありません。用意できる物は良いのですが、何気ない会話や食卓での会話では、わざわざ調べている暇はありません。そのため以前よりも日本という国に対する興味も沸きましたし、留学先よりもまず先に自分の母国に対する知識を持つことが大切だと思いました。

次に、私の留学の成果についてまとめます。一つはもちろん、フランス語が喋れるようになったこと。これによって自分の活動範囲が大きく広がりました。ファミリーとの関係を深めるのはもちろん、出かけた先で出会った人々や自分の住む地域以外の人ともコミュニティが出来ました。そして私の興味の幅が広がったことです。とにかく留学中は一人の時間が多いです。

また環境も違うため、今まであまり観なかったフランス映画を観たり、本を読んだり、また自分の将来について考えるようになりました。また、先ほど述べたように日本という国についても勉強をしています。帰国後も講演会に行ったりなどして大学のことなどについても視野に入れて生活しています。

また留学先での新しい出会いも私に大きな影響を与えたと思います。世界中から集まった留学生との交流。ここで過ごした思い出はすばらしいものです。各国の文化や語学の話はもちろん、時には政治について議論を交わすなど素晴らしい時間と人との繋がりを感じました。

また学校でのフランス語の授業では、知り合ったオーストラリア人とパーティに行ったりして、イースターなどのイベントを祝ったりしました。中東から移り住んだシリア、イラクの子達と学びながら様々な事を教えてもらいました。彼らの食文化、宗教、若者の間で流行りのカルチャーなど日本ではなかなか知ることができなかったことへの興味も湧きました。また同じ言語を使う同じ民族であっても、近年の戦争によって彼らの間に生まれた葛藤や隔たりも感じました。そのため以前よりも歴史や社会問題などについて自分で調べ学ぶことも増えました。そのようなことはこれから先の人生に大いに役立つと信じています。

次にフランスのことについて少しお話ししたいと思います。突然ですがここで皆さんに質問です。フランスといえば何を一番に思い浮かべますか。花都パリ？ おしゃれなパリジャン？ セーヌ川のパトームッシュ？ 平等な国？ どうしても我々はフランスというと、パリの良いイメージばかり浮かんでしましますが、実際はどうでしょうか。まずパリについて話しましょう。2008年にフランスには530万人の外国人移民とその直径子孫が住んでおり、もともとフランスは移民大国であったことがわかります。その後の2015年の欧州難民危機以降、フランスの移民は急激に増えつつあり、2016年には790万人を突破し、これは全人口の12%に昇ります。私もパリを観光した時に訪れたエッフェル塔や凱旋門などのある地区はそうでもありませんが北の18区のアフリカ人街、アラブ人街に入るともう別の国のようでした。私のファミリーも「パリはすっかり変わってしまった」と言うこともありました。

またそれによる治安の悪化も問題です。2015年11月に起きた同時多発テロを境に、フランス全体にテロへの不安が高まりました。近年は失業率の増加も問題です。またフランスをカバーする鉄道はsnCFと呼ばれるフランス国鉄です。もとは民間の鉄道会社を統合し設立されました。80年代にはTGV超高速列車などで栄えたものの、その後は航空運賃の低下などに伴い利用者は減少。現在は多額の負債を抱え、職員のストライキによる遅延運休が相次いでいます。私もロータリーイベントもそれによっていくつか中止されてしまいました。

またフランスは階級意識の強い側面を持ちます。フランスでは大企業で課長以上の管理職になったり、官公庁に勤めたりしたかったら、グランゼコールと呼ばれる「各職業の幹部層を育成する機関」へ入学しなければいけません。高校の最後の年にあるバカロレアという統一試験を取得した人のうち、実際にグランゼコールへ進むのは全体の5%弱だけです。そのためフランスでは普通に大学を出ただけの人は一生頑張って働いても、グランゼコール出身者のような出世はできないといわれています。入社以前にすでに自分がどこまで出世できるのか決まっています。学校から出たら出たで、学歴によって振り分けられる職業。大卒は仕事が見つからなくても意地でも低階級飲食店で働きたくないという人もいようで、飲食店で働けば見下される。部屋探しも不利になったりすることもあります。僕はまだ社会に出ていないため日本の現状はわかりませんが、その点はもしかしたら日本のほうが平等である、と言える部分もあるかもしれません。

そんな実際のイメージをよくも悪くも裏切られたフランスという国で過ごした私の生活は、それでも本当に素晴らしいものでした。確かに日常生活で困ったり不便なことはたくさんあります。フランス人のプライドの高さを感じることはしばしばありましたし、電車は遅れるし、サービスも高く付きます。それでもそれぞれに理由があります。例えば、プライドが高いというのはある意味みな自信を持っている証拠であるとも思います。

フランスという国が持つ観光資源、またフランス人の気さくさ、文化、習慣、歴史。それらすべてを学び習得したわけではありませんが、それによって自分の知らなかった世界を見ることが出来ました。そしてこれからも知りたいと思います。

また日本という国のすばらしさを再認識するとともに、日本が抱える問題にも目を向けるようになりました。特に近年問題にもなっている「過労死」「自殺率」学校教育の過剰な部分などはフランス国内でも話題となります。それらを解決していくことも今の若者の使命だと思います最後に、このような素晴らしい経験をさせてくださった茅野ロータリークラブの皆様、こころより感謝申し上げます。この経験が出来たのはみなさんの支援と協力のおかげです。

これから私は、この10ヶ月間で感じたこと、習得したことを生かし、まずはROTEXとして。皆様の力になればと思っております。これから私は大学受験、就職を経て少しずつ大人になっていきますが、この10ヶ月間で得た視野の広がり・人とのつながりなどは、その上で大きな糧になっていると信じています。本当にありがとうございました。

以上で、私の発表を終わります。ご静聴ありがとうございました。

ROTARY CLUB OF CHINO WEEKLY

長期交換留学生 桑澤太郎君 帰国報告

